

ACP 支援の実際（患者さん・家族への声かけ例）

- 1) 病状の理解を尋ねる
- 2) 話し合うことへの理解を得る
- 3) 「あなたのことが知りたい」、と伝える
- 4) ACP 用紙の説明をする
- 5) 話し合いを希望しなかった時はどうするか
- 6) 不安や気がかりを聞く
- 7) 大切にしたいことを尋ねる
- 8) 病状や今後の見通しについて、どこまで知りたいのか確認する
- 9) 療養場所の希望を尋ねる
- 10) 人生の最終段階のイメージを促す
- 11) 代理意思決定者を選ぶ

1) 病状の理解を尋ねる

患者さん	家族
「先生の説明をきいて、どのように思いましたか。」	「先生からの説明はわかりましたか。」
「先生からの説明をどのように理解されたか、話していただけますか。」	「先生からはどんなお話しがありましたか。」
「今、一番お困りの症状はどのようなことですか。」	「病気のことについて、先生からどのように聞いているか教えて下さい。」
「先生からはどのようなお話しがありましたか。先生にもっと聞きたいことはありますか。」	「ご家族からみて、今、どのようなことが辛そうですか。」
	「〇〇さんはどういうふうにおっしゃっていましたか。」 「ご家族で話したことはありますか。」

2) 話し合うことへの理解を得る

患者さん	家族
「これから話し合うことは、〇〇さんだけでなくご家族にとっても大切なことです。予期しない病気やけがになることは、誰にでもあります。しかし、そのような時は自分の思いや意思を伝えられないことも多く、ご家族が〇〇さんのために決断を迫られることとなります。〇〇さんの目標や大切にしたいことをご家族や私たち病院スタッフに伝えてください。これから先〇〇さんの望む暮らしを支えるためにお聞きしたいのですが、いかがでしょうか。」	「今からの話し合いは、これからのことを考えることです。途中でつらくなったり、話すのが嫌だと思ったら途中でやめることもできます。話し合いを始めてもよろしいでしょうか。」
「〇〇さんが、病気と向き合いながら過ごせるようにお手伝いしたいと考えています。少しお話をうかがってもよろしいでしょうか。」	「今回は体調が良くなって安心しました。でも、同じようなことが起こる可能性もあるので、これからのことを少し心配に思っています。ご家族も一緒に考えていただけませんか。」
患者さん	家族

<p>「もしもの時に備えて、相談していききたいと思うのですが、いかがでしょうか。」</p>	<p>「病気は急に悪くなることがあります。つらい症状でお困りになったときに、頼りになるご家族とも一緒に考えたいと思っています。いかがでしょうか。」</p>
<p>「もしもの時のことを考えて、あるいは、今後のことについて、お聞きしたいのですが。」</p>	<p>「今後のことについて、〇〇さんに、気持ちや意向をうかがいたいと思っています。ご家族として、あえて話題にして欲しくないことや、伝えるのを避けたいことはありますか。」</p>
<p>「大切なことなので、皆さんにお話しさせていただいています。一緒に考えていこうと思いますがいかがでしょうか。」</p>	<p>「〇〇さんの今後の生活をより良くできるよう、〇〇さんの大切にしたいことを教えて頂ければと思っています。いざという時に、ご家族が代わりに決めるということもありますが、時間がない中では大変です。事前に私たち病院スタッフと一緒に考えませんか。」</p>
<p>「もしもの時のことを教えていただけると、〇〇さんのことをよりよく知ることができると思っています。そんな話し合いをできればいいと思うのですが。」</p>	<p>「治療のことや生活のこと、何か心配事や先生には直接言いにくいことがあれば、何でもお話しただけいたらと思っています。」</p>
<p>「今からしようとしている話し合いは、これからのことを考えることです。途中でつらくなったり、話すのが嫌だと思ったら途中でやめることもできます。話し合いを始めてもよろしいでしょうか。」</p>	<p>「これからの生活を想像して、どう過ごしたいのか、どのような医療やケアを望んでいるのかについて、〇〇さんの考えを聞いたことはありませんか。〇〇さんがどう考えているのかご家族にも知っておいていただきたいのです。少しお話しを聞かせていただいてもよろしいでしょうか。」</p>
<p>「今回は、体調が良くなって安心しました。でも、同じようなことが起こる可能性もあるので、これからのことを少し心配に思っています。一緒に考えても良いですか。」</p>	
<p>「今の状態がずっと続くことを願っていますが、もしかすると…可能性として病気が進むことがあります。そうなったときのことを心配しています。もしもの時の話ですが、一緒に準備をすることはいかがですか。」</p>	
<p>「病気は急に悪くなることがあります。辛い症状でお困りになったときに、頼りになるご家族と一緒に考えたいと思っていますが、いかがでしょうか。」</p>	
<p>「率直にいいますと、最期に向けて、いろいろと話し合っておきたいと思うのですが、いかがですか。」</p>	
<p>【患者】「どうして、そんなことをしなくてはいけないのですか。私の病気はそんなに進んでいるのですか。」</p>	

<p>【医師】「大変残念ですが、病気を治すことは難しいです。しかし、苦痛を和らげる治療はできます。これからの治療や生活で何か望むことはありますか。教えていただき、一緒に考えていきたいと思うのですが。」</p>	
<p>【患者】「私は病気が良くなることしか考えていません。」</p> <p>【医師】「これまで通り最善の治療やケアを考えていきます。しかし、もしもの時は誰にでもやってきます。余裕をもって考えられるときにお聞きしたいのです。」「病気には波があります。良いときとそうでないときがあります。いざという時のことを考えて、お聞きしたいのですが。」</p>	
<p>【患者】「私は子供達のために1日でも元気で長生きしたいのです。どうして今、それをしないといけないのですか。」</p> <p>【医療者】「お子さん達とのこれからの暮らしについて、どのようにお手伝いさせていただけばよいか、〇〇さんの希望をうかがいながら話し合っていきたいと思ったものですから。」</p>	
<p>【患者】「あなたたちは病気を治すのが仕事でしょう。どうしてそういうことをしているのですか。」</p> <p>【医療者】</p> <p>「私達も病気を治したいと考えています。しかし、それが難しいときもあります。これからの治療を考えていくうえで参考にさせていただきたいのです。」</p> <p>「今後の生活がより良くなるよう、〇〇さんの目標や大切にしたいことを、ご家族や私たちに教えて頂ければと思っています。予期しないけがや病気になるということは、誰にでもあります。しかし、その時に自分の思いや意思を伝えることができないことがあります。いざという時に、ご家族が代わりに決められるということもありますが、少しでも〇〇さんの意向に添えるように、ご家族や私たち病院スタッフに〇〇さんの意向を教えてくださいませんか。」</p>	
<p>「〇〇さんとお話ししたくてうかがいました。」</p>	
<p>「治療のことや生活のこと、何か心配事や先生には直接言いにくいことがあれば、何でもお話しいただけたらと思っています。」</p>	
<p>「これからの生活を想像して、どう過ごしたいのか、どのような医療やケアを望んでいるのかについて、もしお考えがあれば聞きかせていただけませんか。少しでかまいません。」</p>	

3) あなたのことが知りたい、と伝える

患者さん	家族
------	----

「これから病気とつきあっていく上で、どのようなことが〇〇さんの支えになると思われますか。」	「例えば、ご友人や親戚の方で同じような状況に出会ったことはありませんか。」
「〇〇さんにとって大切で、これができないまま生きていくのは考えられない、と思うのはどんなことですか。」	「その時、〇〇さんはどのようなことを話されていましたか。」
「病状がさらに進んだ場合、余命を伸ばすためならどの程度（の治療）であれば、たとえ辛くてもやっていきたいと思いませんか。」	「私は〇〇さんのことをよく知っている訳ではないので、これからお話をうかがう中で、少しでも考えや思いを知りたいと思っています。いろいろ教えて下さい。」
「ご家族は、〇〈さんのご希望や大切にしたいことについて、どのくらいご存じですか。」	「今の状況で気がかりなことがあれば、教えてください。私たちでお役に立てることがあればお手伝いしたいと思っています。」
「希望を聞かせて下さい。」	「今回〇〇さんが入院となりましたが（治療薬が変わったことで）、気にかかることや不安なことが出てきていないか、先生が心配してみえました（私たちは心配しています）。」
「〇〇さんの気にかかることを聞かせて下さい。」 「〇〇さんの考えていることを聞かせて下さい。」	「私たちは〇〇さんをよく知った上で、どんな医療が〇〇さんにあるのか、一緒に考えていきたいと思っています。そのためご家族のお考えをうかがいたいのです。」
「私は〇〇さんのことをよく知っている訳ではないので、これからお話をうかがう中で、少しでも考えや思いを知りたいと思っています。いろいろ教えてください。」	
「今回入院となりましたが（治療薬が変わったことで）、気にかかることや不安なことが出てきていないか、先生が心配してみえました（私たちは心配しています）。」	
「お会いしたばかりで、話しにくいこともあるかも知れませんが、現在または今後のことで〇〇さんがどんなことを心配し、考えているのか教えてください。そのうえでどのような治療法が〇〇さんにあるのか、一緒に考えていきたいと思っています。」	
「家での生活はどうか。お困りになっていることなどありませんか。」	「ご家族から見て、家での生活はどうか。お困りになっていることはありませんか。」

4) ACP 用紙の説明をする（使用しなくてもよい）

患者さん	家族
------	----

<p>「一般的なことでおうかがいしたいのですが・・・」</p>	<p>「具体的に何を考えれば良いか分かりづらいと思いますので、こういったもの（ACP用紙）を参考にさせていただくのはどうでしょうか。」</p>
<p>「皆さんにお聞きしていることなのですが・・・」</p>	<p>「この用紙は今後〇〇さんがどんなケアや治療を望んでいるか、どんなことをしてほしいのか、逆にこれだけはしてほしくないこととか、今〇〇さんが考えていることを整理するためのものです。このような書類にまとめておくと、ご家族もわかりやすいかと思って、用意してみました。いきなり言われてもイメージしにくいと思いますので、この用紙に書かれていることを参考にしながら、一緒にお話しできればと思います。」</p>
<p>「ACPとは人生会議、終活と言われているもので、病気の人も病気がない人にも勧められています。」</p>	<p>「この用紙を参考に、〇〇さんと、今後のことについて、意向や希望を話し合ってくださいと良いと思います。」</p>
<p>「いざという時に備えて、ご自身が「大切にしていること」や「どう過ごしたいか」「どのような医療やケアを望んでいるか」について、〇〇さんが信頼している方、ご家族や私たち病院スタッフと話し合うことを言います。“いざという時”とは『病気が治ることが難しく、病状が悪くなったときのことで、自分で自分のことを決められない時や伝えられなくなったとき』のことです。」</p>	
<p>「あまり話したくないことなのかもしれませんが、今後体調が悪くなったときのことも考えて、あらかじめ話し合っておくのがよいと思っています。」</p>	
<p>「あまり考えたくないと思われるかもしれませんが、あくまで先々の準備です。これから病気とつきあいながら、いかに楽しみを維持するかなども大切です。ご自分のことをご自分で話せるときに考えておくことはとても大切です。いかがでしょうか。」</p>	
<p>「これからのことを考えるための用紙があります。ご覧になりますか。」</p>	
<p>「具体的に何を考えれば良いか分かりづらいと思いますので、こういったもの（ACP用紙）を参考にしてください。」</p>	
<p>「この用紙は今後〇〇さんがどんなケアや治療を望まれているか、どんなことをしてほしいのか、逆に、これだけはしてほしくないこととか、今〇〇さんが考えていることを整理するためのものです。いきなり言われてもイメージしにくいと思いますので、この用紙に書かれていることを参考にしながら一緒にお話しできればと思います。」</p>	
<p>「ここに書いてあることを、今、全部話し合うわけではありません。」</p>	
<p>「この用紙を読んで、何か気になること、話してみたいことはありますか。」</p>	

5) 話し合いを希望しなかった時はどうするか

患者さん	家族
「よろしければ、その理由をおうかがいしてもいいですか。」 ……今後のことを話し合うことをどのようにとらえているか、その考え方の底にある価値観を知るきっかけになります。	「今はご負担に感じられますか、また考えられる時に一緒に考えましょう。いつでもお声がけ下さい。」
「今、そのようなことを考えるのは負担に感じますか。」	
「どんなことを負担に感じますか。」	
「もしよろしければ、どんなことが負担に感じるか、おうかがいしてもいいですか。」	
「今は、このようなお話しはつらいのですね。いつでも話し合いはできるので、お気持ちが変わったら、おっしゃって下さいね。」	
「今はご負担に感じられますか、また考えられる時に一緒に考えましょう。」	
「そうですよね、お気持ちをお話しいただいてありがとうございます。」	
「突然言われるとびっくりしてしまいますよね。」	
「また気になることがあったらいつでもお声がけください。どんなことをお話しいただいても大丈夫ですからね。」	

6) 不安や気がかりを聞く

患者さん	家族
「今後の病状に関して、一番怖いなど思っていることは何ですか。どんな心配ですか。」	「〇〇さんとしては、何が気がかりになりそうですか。」
「これからのことについて心配や気になることはありますか。」 ……患者さんが自分の思いや不安を誰かに聴いてもらい表現することを通して、大切にしていること、自分の強み、答えが自分の中にあることに気づくことがあります。ここに医療者が傍にいて傾聴することの意味があります。	「ご家族としてはどんなことが心配ですか。」
「これからのことについて話すことで、〇〇さんが心配されていること、不安に思っていることが少しでも軽くなるといいと思っています。」	「今、不安なことがありますか。」
「病気が変化してきているので、いろいろと気にかかるが増えているのではないかと心配しています。それを教えていただけませんか。」	「〇〇さんからご家族に、不安な気持ちや気がかりがあると話しされたりしていますか。」
「世間では終活のようなことが流行っていますが、ご家族とそのような話題をされたことはありませんか。」	「ご家族が疲れていらっしゃるなど、なにかありますか。」
「今、他になにか確認しておきたいことはありませんか。」	

「いざという時のことを考えておたずねするのですが、病状が進んだらどうしようと考えerことはありますか。」	
「今は問題ないのですが、もしも病状が進んで、身の回りのことができなくなったらどうしよう、と考えることはありますか。」	
「もし良かったら、どんなことを考えてみえるか教えていただけますか。」	
「今後のことで〇〇さんがやっておきたいことや何か考えていることはありますか。」	
「困っていることやつらいことはありますか。」	
「家での生活で何か心配なことはありますか。」 ……患者さんが話してくださることから、重要な情報を引き出します。これを患者さんのセルフケア能力の評価、具体的なケア計画の作成につなげ、多職種で共有します。	

7) 大切にしたいことを尋ねる

患者さん	家族
「私たちは〇〇さんが、病気とうまく付き合えるようにお手伝いしたいと考えています。〇〇さんが大切にしていることがあれば、聞かせていただけますか。」 ……患者さんがどのようなことを大切にしているか、これは患者さんの数だけあります。これは患者さんの生活の質(QOL)と強く関連します。だからこそ、医療者は患者さんとの対話を通して、患者さんの大切にしていることを聴く必要があるのです。	「〇〇さんの好きなこと、趣味、あるいは、嫌なことを教えていただけますか。」
「毎日の生活の中で、最も大切にしていること、優先していることは何ですか。」	「〇〇さんはこれまでの暮らしの中で、どんなことを大切にしてきましたか。」
「受け入れがたいこと、最もつらいと感じることは何ですか。」 ……患者さんがどのようなことを受け入れがたい、欠かせないと思ってみえるかを質問することは、今後、難しい選択をしなければならない状況を暗示することにもなります。患者さんからつらそうなサインを察知したら、その思いを受け止め、一旦話し合いを中止します。そして、今後も患者さんのお手伝いを続けることを伝えてください。	「もしも、〇〇さん自身で食事が食べられなくなった場合、〇〇さんだったらどのように考えると思いますか。」
「してほしいこと、してほしくないことは何ですか。」	「〇〇さんが、楽しいと思えることはどんなことですか。」
「〇〇さんが、楽しいと思えることはどんなことですか。」	「〇〇さんが、ホッとできる時間はどんなときですか。」
「〇〇さんが、ホッとできる時間はどんなときですか。」	「〇〇さんの毎日の日課があれば教えて下さい。」
「毎日の日課があれば教えて下さい。」	「〇〇さんはどんな風に過ごしたいとおっしゃっていましたか。」

「目標があれば教えてください。」 ……患者さんの望みを言葉で表現してもらいます。このような目標について話してもらうことは、厳しい現実と直面して、つらさや無力感に苦しむ患者さんの心支えを再認識する機会にもなります。	「慣れた家で出来るだけ過ごしたい、ご家族との時間を大切にしたい、と言われる方もみえます。〇〇さんはどう思うでしょうか。」
「ご家族やお子さんへは、どのように病気のことを伝えてきましたか。」	「いつも〇〇さんが心がけていたことがありますか。」
「何かご自身で準備されていることがありますか。」	
「ご家族やお子さんとのやりとりで、病院スタッフがお手伝いできることが、何かないかと思っています。思いつくことがあれば、どんなことでも教えてください。」	
「考えていると、わくわくしてくる、好きなことや趣味はありませんか。」 ……患者さんを力づけてくれることについて尋ねます。様々な答えが返ってくるでしょう。これらは患者さんが希望を持ち続ける支えです。	
「思い出すと力が湧いてくる、そんなものや人はありますか。」	
「中には慣れた家で出来るだけ過ごしたい、ご家族との時間を大切にしたい、と言われる方もみえます。〇〇さんはどうですか。」	

【患者さんがもし返答に迷ったら】

「こちらでも、良い方向にお手伝いできるように考えてみます。また相談しましょう。」	
「そうですね。急に言われても困りますよね。私たちは一緒に考えますので、思いついたら教えてください。」	
「今でなくても良いので、思いついたら教えてくださいね。」	

【急変時、救急搬送時など病状が深刻な場合】

(最新の ACP の内容をもとに)「今、状態が良くなることを目指して治療を行なっています。それでももしも回復が難しい状態になったら、以前……と話しておられたように、苦痛を緩和したり、体が楽になる治療がよいと考えています。お気持ちに変りはありませんか。いかがでしょうか。」	(最新の ACP の内容をもとに)「〇〇さんは、(いついつ) もしものときは……と話されていきました。〇〇さんの意向に沿って治療・ケアをすすめていくのが一番よいと思っています。いかがでしょうか。」
	「本当に今までよく頑張ってくられたので心苦しいのですが、残念ながら今の状況では、この治療を続けても回復は難しいと思います。ここからは苦痛を緩和することを考えて、少しでも安楽な状態にすることがよいと思います。いかがでしょうか。」
	否定的な反応を示したとき: 「その理由をうかがってもよろしいですか。」 「〇〇さんにしてあげたいことはどのようなことですか。」 「〇〇さんはどうしてほしいと思いますか。」

8) 病状や今後の見通しについて、どこまで知りたいか確認する

患者さん	家族
【医師】「今後病気がどうなっていくかについてどの程度知りたいですか。」	「〇〇さんは自分の病気をすべて知りたいと考えるタイプですか。」
【医師】「病状や今後のことについて、詳しく知りたいですか。それとも詳しく知るのは嫌ですか。」	「ご家族からみて、〇〇さんはどこまで聞きたいと思いますか。」
【医師】「……だとよいのですが、……を心配しています」	
「たとえつらい説明であったとしても、しっかり聞きたい、しっかり聞いて今後のことを自分で考えたいと思っていますか。」	「ご家族としての希望はありますか。」
「やっておきたいことや言っておきたいことがあるので、余命まではっきりと聞いておきたいという人もいます。どうお考えですか。」	「あまり詳しい話は聞きたくないと思われるでしょうか。」
「病状や今後のことについて、どの程度まで知りたいですか。」 ……患者さんの不安や動揺をできるだけ小さくとどめられるように、予後に関する説明は一度で完結させず、患者さんが受け止められる量を確認しながら伝えることが大切です。	「〇〇さんに、今後の治療や見通し、余命のことなどをどこまでお伝えしたいですか。」
「〇〇さんは、何について知りたいですか。」	
【医師】「今日は現在の病状や今後の治療のことについてお話ししたいと考えています。一人でお聞きになりますか。それとも今日は簡単にお話させていただいて、詳しいお話しは、後日、ご家族がおられる時にしましょうか。」	
【看護師】「先生は、病気が背骨の横に再発し、今後、痛みの原因になるとおっしゃっています。何か月かすると歩くのも難しくなるかもしれない、と心配してみえます」 ……医師から患者さん、家族に病状の説明があるときは、看護師はできるだけ同席し、患者さん、家族の理解の程度を確認し、今後、病状がどう変わるか、具体的にイメージできるように説明します。	

9) 療養場所の希望を尋ねる

患者さん	家族
「治療がうまくいって、それが維持できるように、私たち病棟スタッフも〇〇さんをお手伝いしたいと考えています。ただ、病気の性質上、現状を維持できた時のことや、現状を維持できなくなったらということを、少しずつ考えておくのも大切だと思います。いかがですか。」	「〇〇さんだったら、最期まで家での療養を希望されると思いますか。」
【考えられそうな場合】	
「もしも、この先病気が進行してご自身でお手洗いに行くことが難しくなってきたら、どのようなことを優先しながら生活したいか・・・などと、考えたりすることはありますか。」	「〇〇さんだったら、どのような場所での療養を希望されると思いますか。」

「今日は大切なお話を聴かせてくださってありがとうございます。〇〇さんの希望がかなうように、お手伝いさせていただきますね。」	「介護保険など利用できるサービスの話しだけでも聞いてみませんか。」
「病気とつきあう上で、ご自分で動くことが大変になることもあります。その時の療養場所について、ご希望はありますか。」	「人によって療養場所のご希望はまちまちです。なかなか考えにくいとは思いますが、漠然とでも良いので希望はありますか。」
「病気の症状がつかなくなったときの療養場所についてご希望はありますか。」	

【考えられそうにない場合】

「そうですよね。今は難しいですよ。治療がうまくいくように一緒にやっていきましょう。」	「ご家族の不安なことや気がかりなことがあれば教えて下さい。」
「私たちはこれからも〇〇さんのことをお手伝いしたいと考えています。困りごとがあれば、声をかけてくださいね。」	
「介護保険など利用できるサービスの話しだけでも聞いてみませんか。」	
「人によって療養場所のご希望はまちまちです。なかなか考えにくいとは思いますが、漠然とでも良いので希望はありますか。」	
「具体的にトイレに行ける間は自宅でと考えるかともみえますが、〇〇さんはいかがでしょう。」	
「今すぐではないと思いますが、病気が進んだ時に起き上がったり、立ち上がったりするのが大変な時期がくるかもしれません。そうなった時に、どこで誰と過ごしたいですか。どこで過ごすのが安心ですか。」	

10) 人生の最終段階のイメージを促す

患者さん	家族
「もし意識がなくなったら、どういう医療やケアを望みますか。」	「もし意識がなくなったら、どういう医療やケアを望むか、話し合ったことがありますか。」
「皆さんに聞いていることなのですが、呼吸や心臓が止まったときのことについて考えたことがありますか。」	
「身内の方で、重い病気になった方を看た経験はありますか。そのときにどんなことを思いましたか。教えていただけますか。」	
「〇〇さんにとって自然な状態とはどんな状態ですか。もう少し詳しく教えてもらえますか。」	「〇〇さんは、どういう医療やケアを望むと思いますか。」
「また、入院するようなことがあったときのことで、何か心配していることはありますか。」	「身内の方で、重い病気になった方を看た経験はありますか。そのときにどんなことを〇〇さんが感じておられたか、思い出せる範囲で教えて下さい。」
「たとえばの話でよいのですが、今後のことについて〇〇さんのイメージをお聞きしたいのですが。」	「〇〇さんだったら、どのように思うでしょうか。」
「今日は今後病気が進んだ時のことも少しお話できれば、と思います。いかがでしょうか。」	「今日は今後病気が進んだ時のことも少しお話できれば、と思います。先のことにはなりますが、今だから準備できることもあります。いかがでしょうか。」

「体の調子が悪い時はだるかったりするので、今後の治療をどう進めるか、どう生活していくかなどをゆっくり考える余裕が無い場合もあると思います。そのような状況になった時、〇〇さんのまわりの方が代わりに決めざるを得ないことがあります。少しずつ〇〇さんの思いや考えをお聞きして、それをご家族やまわりの方にお伝えしておいた方が、〇〇さんやご家族が安心できるのではないかと思います。」	
「薬や処置などの治療には、メリットとデメリットがあります。命を延ばす可能性はあるものの、痛みや副作用がある程度出てしまう治療もあります。たとえばどんな治療をしても長生きしたいと思われるか、それとも延命や副作用を避けて快適に生活したいと思われるか、その中間的なところで期限を決めて治療をやってみて、またその先に考えるか、〇〇さんのお考えはどれに近いですか。」	
「これだけは絶対にしてほしくない治療はありますか。」	
「心臓マッサージや人工呼吸器などについて何か聞いたことはありますか。」	
「その時に〇〇さんと面と向かってお話しできないこともあります。話せる時に少しでも話し合えればと思って、お話しさせていただきました。」	「いざという時には〇〇さんと面と向かってお話しができないこともあります。話せる時に少しでも話し合えればと思っているのですがいかがですか。」

11) 代理意思決定者を選ぶ

患者さん	家族
「〇〇さんのことをよく知っていて、〇〇さんの考えを大切にしてくれる人は誰ですか。」 ……重要な意思決定に際して、家族などの他者にどの程度関わってほしいかは、患者さんによって異なります。家族に病状を伝えていないこともあります。病状の変化によって、患者さんが自分で自分のことを決められなくなった時、誰に、どの程度委ねたいか、すでに依頼してあるか、などについて尋ねます。	「〇〇さんに、何かあったときのことを託されている方はいらっしゃいますか」
「ご家族や身内の方に限らず、友人でも後見人でもかまいません。〇〇さんのことを一番理解して、気持ちに寄り添って考えてくださる方がいいです。」	「〇〇さんのことをよく知っていて、〇〇さんの考えを大切にしてくれる人をお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。」
「〇〇さんのお考えや大事なことを伝えておきたいと思う人はいませんか。」	